

平成30年1月29日

第163号

関東の森林から



国民の森林・国有林

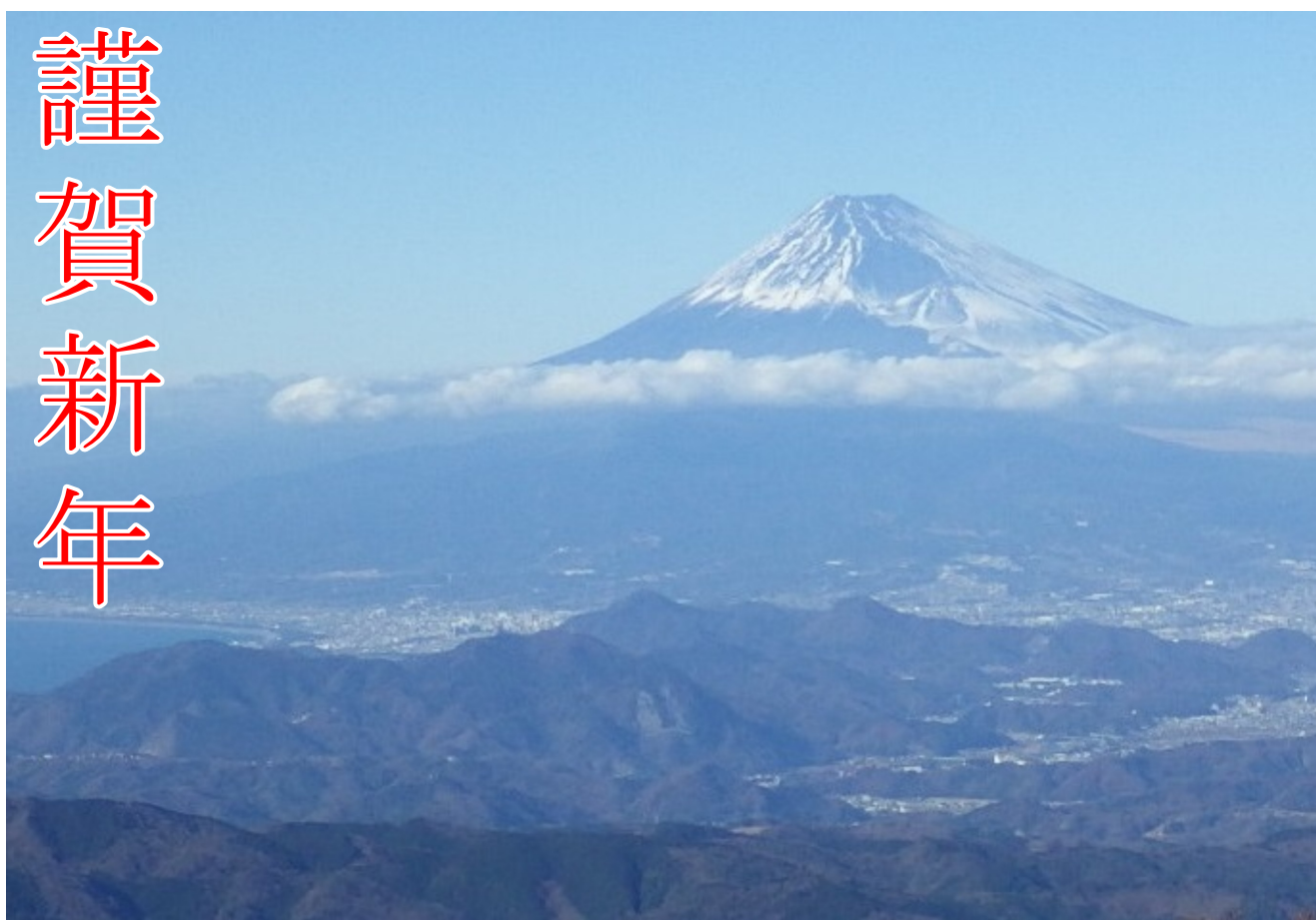
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>

謹賀新年



万次郎岳から臨む富士
(撮影者：伊豆森林管理署河津森林事務所 首席森林官 佐藤将道)

- 新年のご挨拶 関東森林管理局長 漆原勝彦・・・2
- 関東森林管理局におけるニホンジカ対策について 保全課・・・3
- 国有林モニターの募集 企画調整課・・・4
- わたしの美しい森フォトコンテスト募集 保全課・・・4
- 試験地紹介 森林技術・支援センター・・・5
- 森づくり最前線 福島森林管理署 福島森林事務所 首席森林官 星信義・・・6



新年のご挨拶

関東森林管理局長 漆原勝彦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず、皆様方には、日頃より、関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただいております。厚く御礼を申し上げます。今、我が国の人工林資源は、本格的な利用期を迎えています。木材自給率は6年連続で上昇し、海外への木材輸出も年々大きく伸びるなど、我が国の森林・林業・木材産業に明るい展望が開けてきています。

昨年末には、森林整備を進め、地球温暖化や災害を防止していくための財源として、森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）を創設することが決定されました。

このような中、関東森林管理局におきましては、森林の多面的機能の維持・向上を図るため、国有林の整備・保全や治山対策を着実に推進するとともに、林業・木材産業の成長産業化や地方創生に積極的に貢献する取組を入れていきます。

林業を成長産業にしていく上で、森林施業の生産性向上、労働安全の確保は重要な課題です。この課題解決に向け、今、関東森林管理局では組織をあげて、伐採から造林までの作業を高性能林業機械を活用して連続して行う「一貫作業システム」など、新たな施業方法の導入を民有林に先駆けて進めています。

また、新たな施業方法が民有林にも広く普及していきますよう、管内の全ての森林管理署において、民有林関係者の方

に広くお声がけをしながら、現地検討会等を開催しています。

民有林と国有林の連携強化にも努めているところとす。

民有林を経営する方と協定を締結して「森林共同施業団地」を設定し、民有林と国有林を一体的に路網整備や間伐等の森林施業を推進する取組は更に拡大していきます。また、「民国連携推進地区」を設定し、市町村森林整備計画の作成や地域の森林・林業をめぐる課題解決に向けた取組を重点的に支援する取組にも力を入れていきます。

国産材の安定供給体制の構築に貢献していくことも重要な課題です。実需者の方と協定を締結し、国有林材を安定的に供給する「システム販売」を推進しており、今後、より実需者ニーズに即した材の提供に努めていくこととしています。

野生鳥獣害は、大きな社会問題です。

関東森林管理局管内でも、シカの生息域が拡大するとともに、被害が深刻化しています。各地域の関係機関と密接に連携しながら、地域の実情に応じた対策を進めていくこととしており、捕獲も積極的に進めていきます。

今や、国民の3割が花粉症といわれており、花粉発生源対策の推進も急がれます。花粉症対策苗木への植え替えなど、花粉の少ない森林づくりを更に進めてまいります。

「観光先進立国」の実現にも貢献していきます。昨年、特に優れた森林景観を

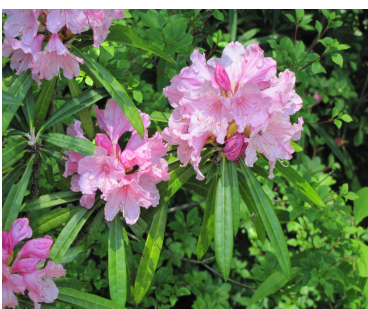
有するとして林野庁が選定した「日本美しの森 お薦め国有林」をはじめ、国有林の観光資源としての活用に積極的に取り組んでいきます。

今年3月には東日本大震災の発生から丸7年を迎えます。昨年は、避難指示が解除された区域にある国有林における木材生産事業等を再開しましたが、引き続き、関係各方面との密接な連携の下、被災地の森林・林業・木材産業の一日も早い再生に全力で取り組んでまいります。

国有林は、国民共通の財産です。国民の皆様のご意見・ご要望をよく聞かせていただきながら、期待に応えられるよう仕事を進めていきたいと考えております。

関東森林管理局の広報誌「関東の森林から」では、よりわかりやすく関東森林管理局の取組を皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって健康で幸多い年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



ホソバシャクナゲ

関東森林管理局におけるニホンジカ対策について

計画保全部 保全課

近年、ニホンジカの個体数が増加するとともに分布域が拡大しており、森林被害が深刻化しています。平成27年度に環境省が調査した野生鳥獣による森林被害面積は、全国で約8千ヘクタールで、その約8割がニホンジカによる被害となっています。

平成25年12月に環境省と農林水産省が策定した「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」では「平成35年までにシカの生息頭数を半減すること」が目標とされています。

関東森林管理局では、ニホンジカによる森林被害が見られる地域を中心に、植林地をニホンジカの食害等から守るため、防護柵を設置するとともに、ニホンジカの生息頭数を減らす取組を進めています。管内の各森林管理署では、くくりわな

やライフル銃による捕獲事業を実施しています。今年度はニホンジカの生息区域の拡大にあわせて事業地を拡大し、12地区で実施しています。

群馬県内の利根沼田森林管理署と吾妻森林管理署では、地元の猟友会と協定を結び、狩猟期間中、国有林の林道ゲートの鍵を貸与して、車で国有林内に入ることでできるようにし、ニホンジカを効果的に捕獲する取組も行っています。

また、森林管理署の職員を対象に鳥獣関係の法令に関する知識や、わなの設置方法、安全な捕獲作業などを習得するための研修を毎年開催し、研修を受講した職員が「くくりわな」を国有林内に設置してニホンジカを捕獲しています。

平成27年度に開始したこの研修の修了



利根沼田署「協定調印式」



吾妻署「群馬地域わな研修」



静岡署「静岡地域わな研修」



上越署 「センサーカメラの設置」

者数は、関東森林管理局全体で291名ののぼり、安全な捕獲技術の向上と捕獲に従事する人材の育成に努めています。

職員がこの3年間に捕獲したニホンジカの累計は、群馬県や静岡県内の森林管理署を中心に、約400頭に及んでいます。

この国有林野職員による捕獲は、各県が策定する鳥獣保護管理事業計画の中で、これを許可する規定が置かれている場合は、実施できることになっており、現在は、栃木・群馬・山梨・静岡・新潟の各県で実施できます。

現在、許可規定が置かれていない各県に対しては、国有林野職員による有害鳥獣捕獲が可能となるよう働きかけを行っているところです。

近年、わな猟による捕獲者数は増加しているものの、銃猟による捕獲者数は高齢化等により減少しており、ニホンジカの生息数の急速な増加に捕獲が追いついていないのが現状です。

このような中で、ニホンジカの生息が確認されていなかった地域でも、新たな目撃情報も聞こえてきており、ニホンジカの分布域の拡大にも注意が必要です。

国有林内を巡視する職員は、「簡易チェックシート」を活用して、ニホンジカによる被害状況を把握するとともに、センサーカメラを用いて生息状況の把握、情報の収集に努めているところです。

今後とも関係する県や地元自治体等と密接に連携しつつ、シカ被害対策を進めていくこととしています。



静岡署「静岡地域わな研修（座学）」

国有林モニター募集

総務企画部 企画調整課

関東森林管理局では、国有林野事業の運営等について国民の皆様にご理解いただくとともに、ご意見・ご要望等をお聞きし、国有林野の管理経営に役立てていくため、「国有林モニター」を募集します。

国有林モニターの皆様には、国有林の広報誌などを定期的にお送りし、アンケートに回答いただきます。また、年1回、国有林モニター会議・現地視察への出席等をお願いします。募集人数は70名程度、依頼期間は平成30年4月から2年間です。

応募資格

福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県及び静岡県にお住まいの国有林野事業に関心のある20歳以上(平成30年4月1日時点)の方(国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び常勤の国家公務員は除きます。)

応募方法

必要事項を記入の上、郵便はがき又はFAXにて、下記の申込み先までご応募ください。関東森林管理局ホームページからも応募できます。

必要事項

- ① 氏名(ふりがな)、② 性別、③ 生

年月日、④ 住所(郵便番号)、⑤ 電話番号、⑥ 職業、⑦ 国有林モニター募集を知ったきっかけ、⑧ 国有林モニターに応募する理由

応募期限

平成30年2月26日(当日必着)

申込み先・問合せ先

〒371-18508

群馬県前橋市岩神町4-16-25

関東森林管理局国有林モニター担当係

(企画調整課内)

TEL:027-210-1150

FAX:027-210-1154

詳細は関東森林管理局ホームページをご覧ください。

(http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kjaku/kokuyur.imonita.html)



丸太生産現場の視察状況

「わたしの美しい森 フォトコンテスト」募集 計画保全部 保全課

「わたし(撮影者)が美しい(魅力的である)と思い、ひとにお薦めしたくなるような風景・場面を撮影した写真を募集します」

林野庁では、平成29年4月28日に選定した「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめとする各地の森林を貴重な観光資源と位置づけ、地域振興に活用されることを期待した各種施策に取り組んでいます。

今般、林野庁を含む「わたしの美しい森 フォトコンテスト」実行委員会は、日本国内の森林や山村地域の魅力的な風景・場面を撮影した写真を募集・表彰、これを公表することとしました。

この取組を通じ、より一層、森林・山村地域に観光客が訪れ、地域への理解が進み、また、地域の活性化につながることを期待しています。

1 応募要領

(1) テーマ

「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめとする各地の森林において撮影された森林景観の美しさ、生命のすばらしさ、体験による感動など、森の魅力を伝える写真を募集します。撮影場所は国有林に限定しませんが、国内の森林とします。

(2) 部門

写真のテーマ別に次の3部門があります。

① 景観部門…森の絶景、森から見える眺望など、森の風景を撮影したもの

② 生命部門…森で育まれる生物(昆虫・動植物)の生命・営みをテーマに撮影したものの

③ 体験部門…森での体験・活動や森での学習により何かを発見したことなどをテーマに撮影したもの

(3) 募集期間

平成29年12月11日(月)～平成30年2月13日(火)(当日消印有効)

(4) 応募資格・方法

○ なたでも応募できます。 ○ お一人につき1部門1点、合計3点まで応募できます。組写真、加工・編集された画像のものは、不可とします。

※ 詳細は林野庁ホームページをご覧ください。

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/171120.html

2 問合せ先

林野庁 「わたしの美しい森 フォトコンテスト」係

住所…東京都千代田区霞が関1-2-1

電話:03-6744-2323 (受付時間:平日 9時30分～18時) メール:moripohoto@maff.go.jp

試験地紹介
ケヤキ若齢人工林試験地
森林技術・支援センター

ケヤキ若齢人工林の成長と土壌調査

ケヤキは代表的な有用広葉樹で、高級建築用材のほか、家具・建具材にも使われてきました。ケヤキ造林は古くから行われ、肥沃な立地を求めると言われていますが、立地とケヤキの成長に関する研究は多くありません。そこで、ケヤキの成長に対する土壌の肥沃度の影響を明らかにするため、土壌のA層(※用語解説)の厚さをケヤキ1本毎に調査しました。

調査の概要

ケヤキのサイズ測定を植栽前の2004年と植栽後の2007、2017年に行いました。土壌調査は「検土杖」を使用しました。検土杖は、長さ約1.1mの金属棒で、先端部に30cmの縦溝があり、地面に差し込んで回転すると、溝の中に地中の土砂を採取できる器具です。



調査対象

植栽されたケヤキは全体で約700本ですが、今回は、同じ150ccコンテナで育苗した、斜面上部の平坦地と斜面下部の傾斜地で調査しました。なお、作業道作設などによる土壌の混乱や誤伐等の

影響を受けたケヤキは、調査対象から外しました。

林分概況(2017年)

斜面上部は平均樹高264cm・平均胸高直径18mm、斜面下部は平均樹高310cm・平均胸高直径22mmです。

A層の厚さ(図1)

A層の厚さの平均は上部6.3cm、下部10.4cmでした。調査対象木毎にA層を調査した結果を図にしました。A層が上部で薄く、下部で厚い様子が見られます。なお、図印は土壌の混乱や、誤伐等の影響を受けているため、調査対象から外した箇所です。

A層の厚さと樹高・胸高直径(図2)

樹高成長量の年平均を平均伸長量とし、胸高直径の年平均成長量を平均肥大成長量とします。A層の厚さについて平均伸長量・平均肥大成長量により散布図を作成しました。右がA層と平均伸長量、左が●、下部が×です。A層が厚いほど平均伸長量・平均肥大成長量ともに大きくなる傾向が明瞭に示されました。

それではA層の厚さと立地(上部か下部か)のどちらがよりケヤキの成長に影響を与えているのか。あるいは、両方の因子の組み合わせ(交互作用※用語解説)によるのかを分析しました。すると、A層の厚さについては、非常に高い有意性が認められました。一方、立地については、有意性は認められましたが、A層ほど高いものではありませんでした。(散布

図を見ると●×それぞれのタテ方向の散らばり具合にほとんど差が無いことが読み取れますので、立地の違いによる影響は、さほど大きくないと考えられます。)

交互作用については、平均伸長量で有意性が認められましたが、A層の厚さだけの有意性に比べると高いものではありませんでした。(平均伸長量では、斜面下部のA層が厚い場所の個体が、成長がやや良好な傾向が示されています。)

まとめ

ケヤキのサイズは、土壌の肥沃度(A層の厚さ)に影響を受けていることが本試験地の単木レベルで明らかとなりました。これまでケヤキの適地は、斜面の上より下と漠然と言われてきていますが、肥沃度の指標としてA層の厚さが有効であることが示唆されました。

※用語解説

「A層」…堆積有機物層の直下にある腐植に富む暗色の層位。動植物遺体の分解により生成された腐植が集積し、暗褐色を呈するに至った最表層の層位。

「交互作用」…2つの因子が組み合わせられることで現れる相乗効果のこと。

当センターでは視察・研修を随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください

電話 0296-72-1146

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gizyutu/index.html

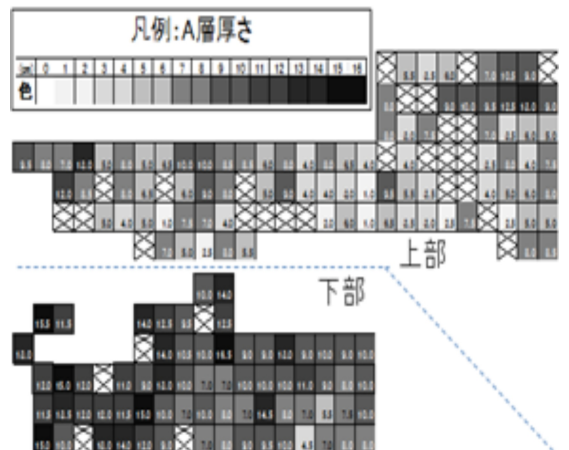
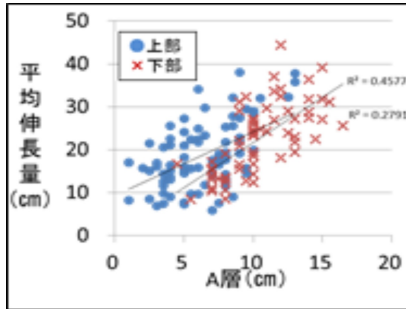
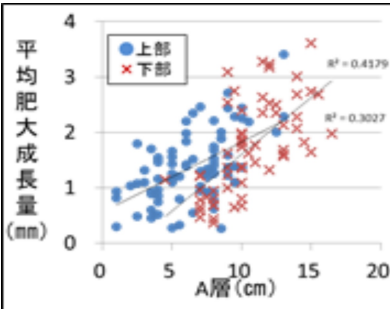


図1



分散分析結果:
 A層の厚さ $p < 0.001$
 立地(下部vs上部) $p < 0.05$
 交互作用 $p < 0.05$

図2-1



分散分析結果:
 A層の厚さ $p < 0.001$
 立地(下部vs上部) $p < 0.05$
 交互作用 n.s

図2-2

森づくり最前線

福島森林管理署 福島森林事務所 首席森林官 星 信義



摺上川 ダム
(すりかみがわ)

【歴史】
当森林事務所管内は古くから林業

【管内の概要】
福島森林事務所は、福島市の北西部、宮城県や山形県との県境に近い約2万haの国有林を管理しています。奥羽山系の栗子山(1,217m)・豪志山(1,022m)を水源とする摺上川の上流域が主体であり、そこから生まれる上質の水は、福島市内で阿武隈川と合流し、宮城県から太平洋に注いでいます。



【現状】
かつて林業で繁栄した摺上川上流域は、東北地方有数の規模の摺上川ダムが平成18年に完成、多くの集落が移転し、現在は人が住まない地域



ブナ材のトロッコ運材

が盛んで、昭和11年から28年まで、福島営林署直営の茂庭製材所が広葉樹の製材事業を行っていました。製材所から上流へ約10kmにわたり森林軌道も敷設され、トロッコ運材が行われていました。太平洋戦争中は、飛行機のプロペラ用材として大量のブナ材を供出し、昭和18年には農林大臣が官行事業所に激励に訪れたこともあり、林業により繁栄した歴史のある地域です。

戦中・戦後に伐採された森は、その後、ブナ等の豊かな広葉樹林が回復し山形県との県境の稜線部は、現在、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」に指定されています。自然度の高いエリアで、猛禽類や獣類も数多く生息しています。

【これから】
管内に隣接する米沢市では、本年1月にバイオマス発電所が開業し、燃料としての木材需要が高まっております。また、マツ類は、各地の社寺仏

となつています。ダム上流域のほとんどが国有林で、水源を汚染する施設が無いことから水質は特に良好に保たれ、世界的品質コンテストのモンドセレクションで昨年、最高金賞を受賞しています。福島市では、蛇口をひねると国有林生まれの超軟水のおいしい「ふくしまの水」が出てきます。市は、水道水源条例により民間事業者の事業を規制しています。この地域の国有林は、緑の水瓶として大きな期待が寄せられています。

戦中・戦後の伐採跡地の一部に植栽されたスギやアカマツは、伐採時期を迎えています。生産した木材は、森林事務所の敷地を土場として活用しながら、合板工場やチップ工場、バイオマス発電所などに供給しています。

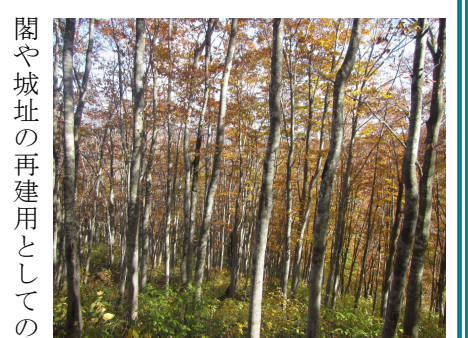
数年前から、クマがスギの樹皮を剥いでスギが枯れる被害が目立ち、クマによる林業被害が福島県内で最も早く顕在化している地域となっております。樹幹に被害防止用のテープを巻いたり、被害木が多い箇所は枯損前に木材生産を行うといった対応をしています。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393



トドノネオオワタムシ(根大綿虫)
約4mm.いわゆる雪虫の一種。アブラムシの仲間。
新たな寄主木へ移るため、年2回だけ羽のあつた個体が生まれる。

先輩方が営々と育ててきた山を生かし、地域と連携を図りながら、良質で豊富な水や木材の供給、自然環境、そして再生可能な自然エネルギー資源として、益々高まっている国有林の使命を果たしていきたいと思っております。



水源地のブナ二次林